

## JICAの現場から 24

インドは比肩しうるものがないスペシャルな国だ。経済成長・市場潜在力、いずれも世界一。日本政府は2014年、特別戦略的グローバル・パートナーシップを全新興国の中で唯一、インドと構築した。毎年、首脳相互訪問もインドとのみ制度化している。

◇

日系企業の日もインドに向いている。日本の製造業を対象とした今後3年程度の有望事業展開国・地域のアンケートでインドが3年連続で1位となった。インドに進出した日系企業（16年1305社）の7割超が事業拡大を志向しているとの調査結果もある。

ただし、貧困層が4分の1を占めるなどいまだ発展途上なうえ、世界銀行の「ビジネスの容易さランキング」で190カ国中130位にとどまる。インフラも未整備で各種制度も不安定・不透明であり、ビジネスリスクは小さくない。

このため、JICAは3000億円超という世界最大規模の円借款供与などを通じて、ビジネスリスク

低減につながる支援を積極展開している。インド初となる貨物専用鉄道や高速鉄道の整備で輸送・移動のコストとリスクを軽減。電力・上下水道分野でも急増する需要に対応した支援を行っている。登記手続きといった投資・取引関連制度の合理化や人材育成、保健分野などでも事業を展開している。

政府レベルでの支援事業以外で目玉にしているのは、日本の中小企業との連携事業だ。日本企業のキラリと光る技術やノウハウはインドの発展に資するため、市場調査や普及・実証調査にJICAのネットワークや資金を活用頂いている。16年度も中部、北陸、山陰からの視察団をはじめ多数の日系企業が来印され、情報交換した。

実績も出ている。水道テクニカルサービス（横浜市旭区）はベンガルール市で漏水防止や給水人口増に貢献。同市が新設した漏水対策部局から商談引き合いも直接受けている。

トヨタ工機（東京都府中市）はプレキャスト工法による高品質で

# 日系中小との連携目玉に

インド事務所長

さかもと たけま  
坂本 威午 氏



パンジャブ州の農家の人々が試乗し、高機能を実感した東洋農機のジャガイモ収穫機（JICA提供）

迅速なコンクリート製造に先鞭（せんべん）をつけたことで、関連現地法人に注文が殺到、うれしい悲鳴を上げている。

東洋農機（北海道帯広市）はパンジャブ州でジャガイモ収穫機の普及に取り組み、大幅な収量増を実現。当初は「ジャガイモ生産大国であり、教わることはなにもない」と言っていた同州から大きな信頼を勝ち得た。

JICAとの連携事業後に現地法人や事務所を開設した日系企業も多い。JICAインド事務所が行う日系企業への助言・情報提供

・インド側との仲介といった支援に対し、世界平均より高い満足度を示していただいている。開発課題に対応してインドに喜ばれ、かつ日系企業の事業展開にも役立つ支援に今後も果敢に取り組んでいく。（随時掲載）

【略歴】中東地域担当課長、報道課長、総務課長、社会基盤担当部次長など歴任。北京駐在員、イラク事務所長なども経て15年6月より現職。福岡市出身。